

あざん染色は膠原線維と筋線維を染め分ける染色法で、線維性結合組織中の膠原線維をアニリンブルーで染める代表的な染色法です。病変経過に伴う組織の器質化を知る上でも重要で、硝子変性、線維素などの病的産生物も染め出すことから、有用な染色法の一つです。ちーるねるぜん染色法は、1882年に Ehrlich によって抗酸性という概念が確立されたのをもとに、細菌学者の Franz Ziehl と病理学者の Friedrich K.A. Neelsen によって考案されたので、二人の名前に因んでちーるねるぜん染色と呼ばれています。ちーるねるぜん染色は、抗酸菌染色法の中でも安定した染色法として世界中で広く用いられています。